

令和6年度 富山県農村振興対策委員会議事録(概要)

日時 令和7年2月21日(金)10時00～11時50分

場所 富山県民会館701会議室

○ 事務局から、資料1「前回委員会(R6.2.19)の委員からの主な意見と対応状況」、資料2「中山間地域等直接支払制度の実施状況等について」、資料3「多面的機能支払制度の実施状況等について」及び資料4「環境保全型農業直接支払制度の実施状況等について」について説明。

委員からの主な質問・意見及び事務局からの回答は以下のとおり。

【委員】農村コミュニティそのものを強化するのは難しい。地域の住民が何とかしたいという気持ちを出せるかが問われている。地域に若い人がいないのであれば早めに判断し、外から若い人を入れることを考える必要がある。若い人は有機農業や自然栽培に関心がある。有機農業の推進は担い手政策の重要な柱となる。他の部署と一体になって有機を進めてほしい。

【委員】JAS有機は検証機関がしっかりしており、厳しい基準がある。オーガニックについては検証機関がなく、実態が分からない状況にあることに問題を感じる。

(事務局)南砺市と富山市で取組んでいるオーガニックビレッジは市町村が主体となり、有機に特化し、生産、加工、消費者も含めた地域ぐるみで有機を進めるもの。有機JASをとれるまでに移行期の取組みを環直で支えて、国の評価である有機JASを広げていく。自然農法も大切だが認証の術はない。ただ、自然栽培にも消費者ニーズにはある。オーガニックビレッジでは、生産現場を見てもらう消費者との交流を図り、取組みを対外的にアピールしてもらう市町村や生産者に伝えていきたい。

【委員】多面的機能支払交付金について、冬期湛水、長期中干しに加わったが、水が少ないところは取り組むのは難しい。また、冬期湛水は、渡り鳥の休憩地になるため、鳥インフルエンザに対し神経質になっている地域では難しい。

【委員】中山間の特徴的な取組を一般県民への周知方法を検討されたい。研修会に、一般や大学生の特別枠を設け、参加いただければどうか。

【委員】多面的機能支払交付金について、事務の簡素化、システム化の見通しはあるか。

(事務局)本年度他県の取組事例を研究し、県のカスタマイズが必要などの課題を整理し、来年度は他県・民間システムを活用しながら進めてまいりたい。

○ 事務局から、欠席委員からの主な事前意見を紹介。

【委員】多面・中山間において外部人材の確保パートタイム労働者の活用に関してアグリマッチボックスの活用や、ボランティアではおもてなしの必要性を感じることから新たなチャンネル(外部人材を雇える仕組み)を検討されたい。環直の面積増減は単価の見直しによるものだと考える。取組技術の向上や効果の情報公開などにより、取組拡大を図れないか。活動組織の広域化により、事務負担が軽減されることは理解できるが、役員数をただ減らすだけではメリットとして不十分と感じている。

○ 事務局から、資料5「農村環境創造基金事業の実施状況等について」を説明。

【委員】農業、地域おこしについても外からの力、新しい仕掛けが必要不可欠である。だが、補助金や露出、評価される部分が、新規性のあるものに集中しすぎている。利賀村では人口減で、一人当たりの草刈り面積が多く、一人当たりの負担も大きい、若者の力を借りて日々奮闘している。

新規就農の若者に地域の先輩の苦労話を紹介し、風土と地域を作った敬意をもって地域に入ってもらえたら、双方で頑張っていける力になる。

【委員】JAからリモコン草刈り機を借りて、若い人が楽しく草刈りしている。凸凹箇所など機械対応できない場所を、整備する仕組みがあればよい。7～9月が暑すぎて草刈りの実施は(熱中症等のリスクが高く)危険なため、草刈りを緩和できる仕組みが求められる。カメムシ対策としての細かな草刈りの仕組みが必要と思う。

【委員】畔が崩壊状態である。営農継続のため、ほ場整備をもう一度行い、トラクターにつける除草機が使用可能な広い畔を作ってほしい。

以上